

情報共有

福島事務所 9時レク 4/19

(1枚)

4/19 11:00 FIX

東京電力株式会社

手許資料

本日(4/19)9時の福島事務所定例レク概要を以下の通りお知らせいたします。

4/19(月)9時定例レク概要

<説明内容>

①本日の作業予定【口頭説明】

- ・原子炉への淡水注入について(継続実施)
- ・T/B地下階、トレンチのたまり水の水位について
- ・1号機窒素封入について(継続実施)
- ・飛散防止剤の樹脂散布について(本日実施予定なし)
- ・集中廃棄物処理施設について(本日移送開始予定)
- ・リモートコントロール重機によるガレキの撤去について(継続実施)
- ・ロボットによる原子炉建屋内状況確認について(本日実施予定なし)
- ・バックアップ電源のケーブル布設作業について(継続実施)

<主な質疑>

Q. 集中廃棄物処理施設への移送作業の開始時間は。

A. 午前中を予定している。開始したらお知らせする。

Q. 移送終了までの期間は。

A. 約26日間の予定。

Q. プロセス建屋の容量は。

A. 集中廃棄物処理建屋の4建屋の中で貯蔵可能容量が一番大きいプロセス主建屋を使用する。移送予定量は約10,000m³。2号機T/Bの滞留水は約25,000m³と推定しているため、残りの15,000m³と1,3号機のT/Bの滞留水は新たなタンクを持って来るなど、今後検討して対応する。

Q. 移送手順等は。

A. ポンプを3台用意しているが全てを動かすのではなく、最初に1台で2,500m³移送し、その後健全性等状況確認を行い、更にもう1台追加し、プラス7,500m³移送する予定。もう1台のポンプは予備。

Q. T/Bも水位は下がってくると想定しているか。

A. 水位が下がて来ると思われるが、下がると風呂の水あかのように、高い放射性物質が浮いてくる可能性があるため状況を見ながら移送する必要がある。浮遊する等した放射性物質は、排風器でフィルターに付着させ処理をする。建屋の壁等に付着する等した放射性物質は水で洗浄しながら作業を進める。洗浄するための水は極力抑えながら進めたい。

Q. プロセス主建屋以外は使用しないのか。

A. 止水作業等実施していないため使用予定はないが、今後検討していくことになる。

Q. 移送作業に使用するポンプのホースの仕様(材質、厚さ等)は。

A. 確認する。

Q. 原子炉建屋の地下の水の処理はどのようにするのか。

A. 現時点ではまだ決まっていない。

以上

情報共有
1枚

4/19 7:50 FAX

東京電力株式会社
手許資料

本日(4/19)12時の福島事務所定例レク概要を以下の通りお知らせいたします。

4/19(月)12時定例レク概要

<説明内容>

①プラント関連パラメータの状況報告(4月19日 7:00現在)【口頭説明】

②作業状況について【口頭説明】

※ロボットによる「2号機原子炉建屋内線量測定箇所及び測定結果」、
「1, 2, 3号機原子炉建屋の写真」説明【資料配付】

<主な質疑>

Q. ロボットの次の作業状況は。

A. 次回は未定。今回の作業評価後に検討することになる。

Q. 2号機の温度と線量から得られることは。

A. 他号機と比べ、温度、湿度等を見ると状況が違うようだが、これから評価することになる。

Q. 大物搬入口の大きさは。

A. 使用済燃料のキャスクを積んだ車両が出入りできるくらいのサイズ。(詳細は分ならず)

Q. 作業員の勤務態勢は。

A. 特に変更にはなっていない。構内に新たに作業員の休憩場所の設置を検討中。

Q. 案中廃棄物処理施設への移送状況は。

A. 10:08移送開始 → 10:27水が来たことの確認 → 10:56リークチェック
(リークなし)

Q. 通常時の建屋内の湿度や温度は。

A. 湿度は50~60%。温度は場所や季節によって違うため一概に言えない。

Q. 3号機の原子炉圧力容器まわり温度(給水ノズル)が102℃となっており、まもなく冷温状態になる感じがする。また、1号機の給水ノズル付近温度も同様に下がってきているが、計器の信頼度は。

A. 過去に温度がマイナス表示となったこともあるため、信頼性は疑問である。
表中※印の付いているものは、推移を注視しているもの。

以上

福島事務所定例記者レク概要（4月19日（火）21時）

<説明内容>

- ① 1F敷地内における空気中の放射性物質の核種分析結果について説明【資料配付】
- ② 1F付近の海水からの放射性物質の検出について説明【資料配付】
- ③ 1F2取水口付近からの放射性物質を含む液体の海への流出について説明【資料配付】
- ④ 1Fタービン建屋付近のサブドレンからの放射性物質の検出について【資料配付】
- ⑤ 飛散防止剤散布実績と予定について【資料配付】
- ⑥ 作業関係実績等【口頭説明】
 - ・ RWへの移送ホースの耐放射性について
($1.0E+05Sv$ に耐える。よって、 $1Sv/h$ であれば約11年耐える換算。)
 - ・ アレバ社との契約について
(契約内容の詳細については、今後協議予定。)
 - ・ 1F-3大物搬入口の大きさについて
(約 $5m \times 5m$ 。)
 - ・ 1F-4SFPへの放水について
(明日も実施する予定。)

<主な質疑>

- Q. 2u取水口におけるゼオライトの効果は？
- A. ゼオライトの量は、海水量と比較すると多くないため、顕著な効果は出ていない。
ゼオライトにどれくらい放射性物質が吸着したかを見ることによって、効果を計ることとはできると思う。
- Q. 2u取水口のヨウ素の値が高いまま推移しているのは、流出が続いているからではないか？
- A. 微量に流れていることは否定できない。もう少し、推移を見たい。
- Q. 3キロ沖の評価は？
- A. 拡散の様子等を見るために、3キロ・8キロに採取ポイントを増やした。
沿岸と沖合15キロの結果に鑑みれば、3キロ沖の値は想定内。
- Q. RWへの移送で、水位はどの程度下がると考えているか。
- A. 10,000トンの移送によって、約1m下がると想定している。
- Q. 3uの大物搬入口は、壊れているのか？扉がなくなっているのか？
- A. (要確認。)
- Q. 明日の作業予定は？
- A. 4uSFPの追加放水、飛散防止剤散布、RWへの移送、がれき撤去。

以上